グローバル・スタディーズ研究科

博士課程（前期課程 / 後期課程）

Graduate School of Global Studies

Doshisha University

Doshisha University

PROFILE

グローバル・スタディーズ研究科の目標

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科は、2010年4月に発足した独立研究科です。本研究科が生まれた背景には、「グローバル・イシュー（地球規模の課題）」と呼ばれる課題の登場があります。たとえば移民や難民あるいは環境問題などですが、ヒトやモノが国境を越えて複雑に絡み合う今日の社会が抱えるいかなる課題も、特定の地域に限定されるものではありません。またこうした課題は、地理的広がりを意味するだけではありません。今日のグローバル・イシューは、社会、経済、文化、思想など、従来別々に議論されてきた複数の文脈が重なり合って登場しています。まさに、これまでの人文学・社会科学の枠組みを大きく揺るがす形で課題が噴出しているのが、今日の世界なのです。

こうしたグローバル・イシューに対して、私たちは、個別地域の固有性に密着して考えることと、地域横断的に思考することの両方を重視しています。いわば、普遍性や一般化というよりも、つながりを求めて個別に密着すること、これが本研究科の基本的な構えです。そこでは、個々の対象や場所への熱い思いと、つながりを希求してそこから飛び立つ勇気が求められます。また入学に際してこれまでのディシプリンは問いませんが、自らが何に関心を持ち、大学院でどのような課題に取り組みたいのかを明確にする必要があります。博士前期課程、博士後期課程とも、学生は以下の3クラスターのいずれかに所属します。

アメリカ研究クラスター

アメリカ合衆国は、一世紀以上にわたりグローバル社会において大きな役割を果たしてきました。日本とも、政治、経済、文化などにおいて、複雑かつ多様な関係をもっています。アメリカ研究クラスターは、グローバルな視点からアメリカ合衆国を研究することを目標としています。歴史学、人類学、宗教、文化、政治思想、アフリカン・ディアスポラ研究、平和研究、ジェンダー・クイア研究、メディア研究と多岐にわたる専門分野の教員の丁寧な指導や講義を通じて、アメリカを形づくってきた歴史、社会、文化や思想、そして様々に交差するトランスナショナルな交流についての理解を深めます。

現代アジア研究クラスター

中国、朝鮮半島、日本、東南アジア研究を専門とする教員によって構成されています。それぞれが各地域からアジアを見る、日本からアジアを見る、世界からアジアを見る、というトランスナショナルな視点を大切にしています。そうした俯瞰的な視座だけではなく、その地域で生きる人びとの文化や生活、心情などを丹念に考えることも重要です。現代アジアの政治・経済・社会には様々な問題が山積しており、解決策がなかなか見つからない難題も数多くあります。しかし、それらを考え続けて解決策を探し求めることは、やりがいがあり、実に楽しくもあります。東アジアの社会や人びとについてともに考え対話しましょう。

グローバル社会研究クラスター

このクラスターでは、人間の安全保障、紛争抑止と平和構築、開発と貧困、国境を越える人の移動、多文化教育、ジェンダー、市民権、レイシズム、階層格差、地球環境などの問題に取り組んでいます。所属する教員は、多様なディシプリンを背景に持ち、アフリカ、中東、ヨーロッパ、アジアなどの地域をカバーしています。こうしてディシプリンと地域研究を柔軟に組み合わせ、現代の地球規模の課題を検討しています。また国際協力機構（JICA）の人材育成事業の一環として、中央・南アジアやアフリカなどの地域から多くの留学生を迎えていることも、国際色豊かなこのクラスターの特徴です。

	グローバル・スタディーズ専攻 博士課程	
	前 期	後 期
グローバル・スタディーズ研究科	■アメリカ研究クラスター ■現代アジア研究クラスター ■グローバル社会研究クラスター	■アメリカ研究クラスター ■現代アジア研究クラスター ■グローバル社会研究クラスター

所属教員（2023年度現在）

アメリカ研究クラスター

秋林 こずえ
［教授］
ジェンダー研究
平和教育研究

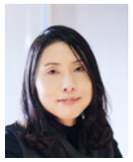
Gavin J. CAMPBELL
［教授］
アメリカ史
アメリカ宗教研究
トランスナショナル・アメリカ研究論

菅野 優香
［教授］
クィア・スタディーズ
映画・視覚文化研究

南川 文里
［教授］
社会学
人種エスニシティ研究
国際移民研究

岡野 八代
［教授］
西洋政治思想史
フェミニズム理論

CHRONOPOULOS Themis
［教授］
アーバン・スタディーズ
アフリカン・アメリカン・スタディーズ
ワールド・シティーズ



三牧 聖子
［准教授］
アメリカ政治外交史
国際関係論

現代アジア研究クラスター

村田 雄二郎
［教授］
中国思想史
中国近現代史
日中関係史

太田 修
［教授］
朝鮮半島研究
朝鮮近現代史
近現代日朝関係史

小山田 英治
［教授］
途上国および新興国における開発とガバナンス問題

錢 鵬
［教授］
中国の文学と思想
近現代日中学術文化関係史
文化とイデオロギー

冨山 一郎
［教授］
日本研究
沖縄近現代史研究

厳 善平
［教授］
現代中国の社会と経済
労働移動
農業と食糧問題

周 俊
［助教］
中国政治史
中国共産党史

グローバル社会研究クラスター

Anne GONON
［教授］
現代社会における
モラルエコノミー
社会的暴力

菊池 恵介
［教授］
格差・貧困問題
レイシズム研究
フランス地域研究

峯 陽一
［教授］
アフリカ地域研究
人間の安全保障

内藤 正典
［教授］
国際移動論
現代イスラーム地域研究

中西 久枝
［教授］
中東現代政治
イスラームとジェンダー
平和構築

西川 由紀子
［教授］
平和研究
開発研究

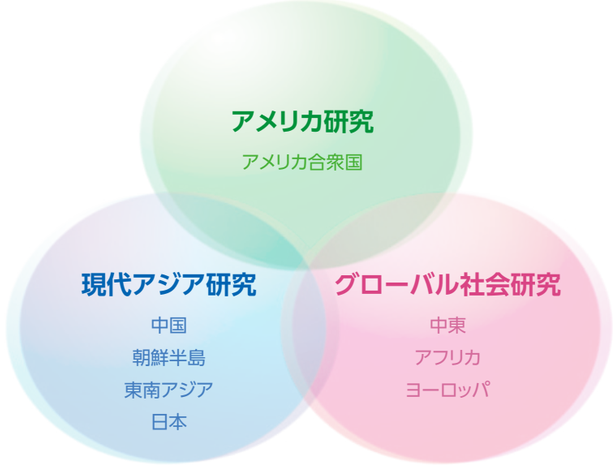
PAREPA Laura-Anca
［准教授］
国際安全保障
国際公共政策
紛争研究

●助手

Adamu Waziri BABAGANA

Asmao DIALLO

研究対象地域



CURRICULUM

New グローバル・スタディーズ研究科で何が学べるのか

自由で学際的なカリキュラム

本研究科は、アメリカ研究、アジア研究、グローバル社会研究の3つのクラスターから構成されていますが、いくつかの必修科目をのぞき、自由かつ横断的にデザインできるのが最大の特色です。「グローバル・スタディーズ入門」や「理論と方法」といった共通の必修科目では、現代世界が抱える様々な問題について、地球規模の視点から、問題意識の共有を図りつつ、研究分野の基礎知識や方法論について学びます。選択科目では、地域やイシュー（課題）をめぐる多様で学際的な授業が数多く提供されています。学生の主体性を尊重し、将来のキャリア・プランを実現するために、丁寧なガイダンスを通して、自由にカリキュラムをデザインすることが可能です。開講科目の約半数が英語で行われていることも、本研究科の大きな特色となっています。

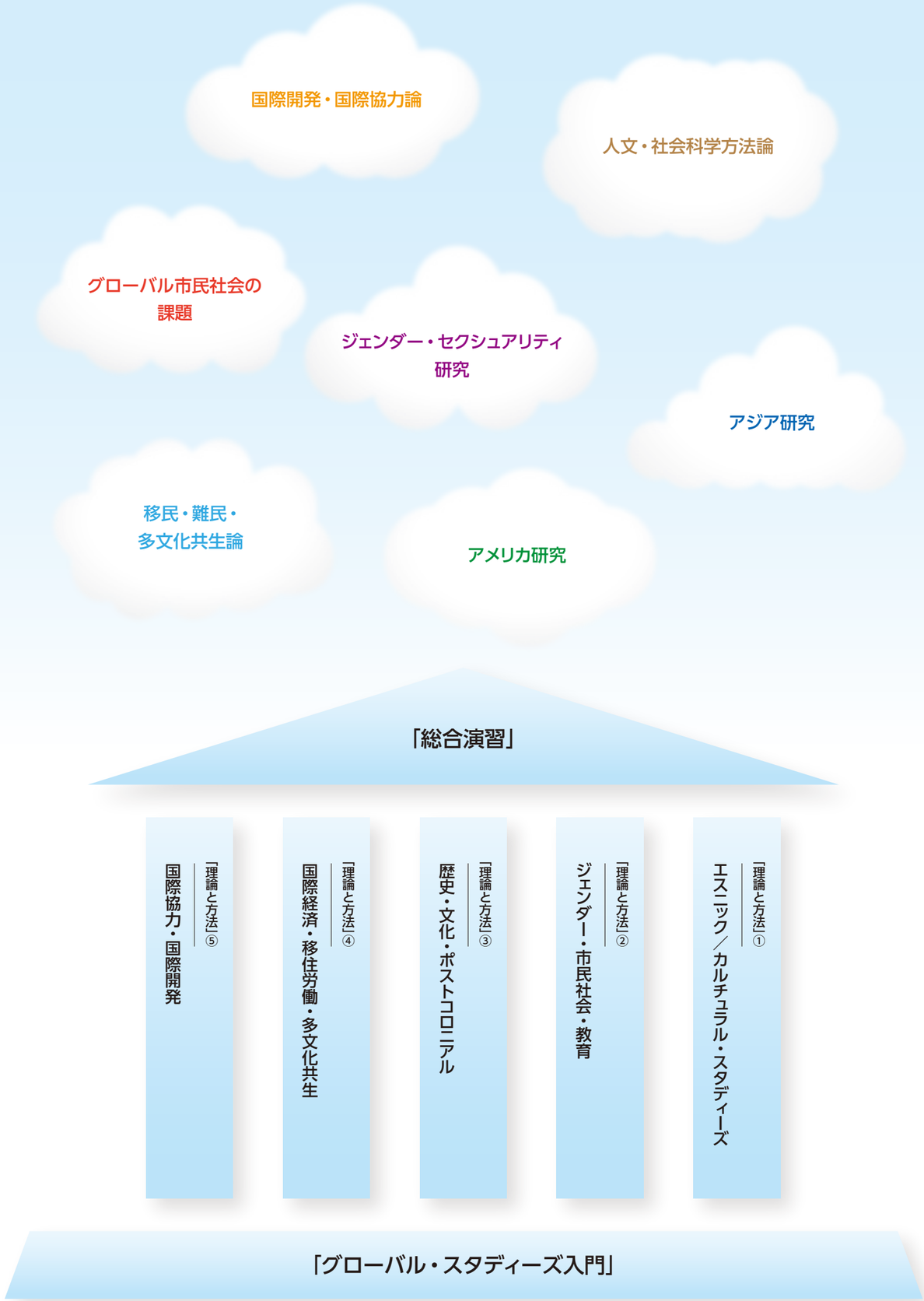
また、現代のグローバル・イシューと向き合うためには、理論的認識や専門知識を深める一方、問題の解決に向けた実践的な取り組みが欠かせません。そのため本研究科では、国際協力などの分野で実績のある実務専門家を迎えると同時に、フィールドワークやインターンシップをカリキュラムに組み込んで、将来、国際機関やシンクタンク、NGO やメディアで活躍する人材の育成にも力を入れています。

最近の学生の研究テーマから

- 中国女性にとっての、離婚制限が意味すること―離婚冷静期を中心に―
- 「金門学」と「金門人」意識―移動民から問う―
- ドイツの難民受け入れ政策の課題―ベルリンにおける就労実態を中心に―
- 人生を振り返るトランス男性の自伝的語り
- ムスリムの糖尿病患者へのセルフマネジメントの適用－ラマダーン月の断食に焦点を当てて－
- The Treaty of Mutual Cooperation and Security Between Japan and the United States: Is It Still Relevant?

問題意識を深く掘り下げる少人数教育

大学院教育の到達点は、修士論文（または課題研究）、博士論文を仕上げることです。本研究科では、教員と学生の双方が対話を重視し、論文完成まで少人数教育で丁寧な指導を実施しています。とりわけゼミ（演習）では、学術論文の書き方に関わるテクニカルな指導から、論文の構成に関する助言、フィールドワークまで、それぞれの学生の問題意識に沿って、丁寧な教育指導を行っています。それぞれのクラスターでは、教授陣の前で学生が論文の構想を報告する中間発表会（総合演習）も活発に行われています。



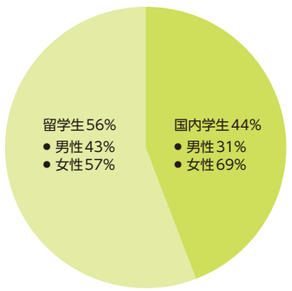
SUPPORT

国際的な研究環境

留学生との交流

本研究科の特徴の1つは、在学生の約半数を外国人留学生が占めていることです。とりわけ中国からの留学生のほか、国際協力機構（JICA）が実施する日本政府の人材育成支援事業の一環として、アフガニスタンやアフリカ諸国などから毎年多くの留学生を受け入れています。歴史、文化、宗教などの異なる留学生たちとの日々の交流は日本人の学生にとっても刺激的かつ重要な異文化コミュニケーションの機会となっています。

グローバル・スタディーズ研究科　在籍者数
［博士前期課程／後期課程　計156名］

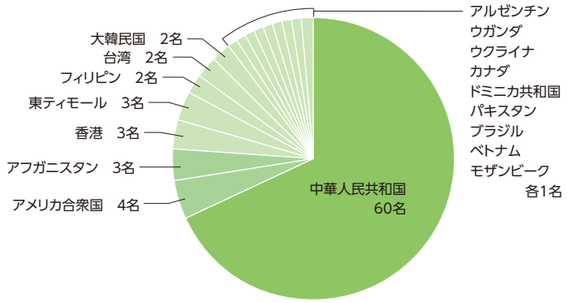


（2024.4.1現在）

多様な国際連携

同志社大学は建学の精神の1つに「国際主義」を掲げ、約45ヶ国の200校以上の大学と学術交流協定を締結しています。その豊富なネットワークを利用して、留学や研究活動を行うことができます。さらに、本研究科が独自に提携する国内外の大学・研究機関もあり、学生交換や共同研究などを積極的に進めています。

留学生在籍数
［計17カ国・地域　計88名］



充実したサポート

奨学金制度など

本学では大学院生に対して充実した奨学金制度を設けています。博士後期課程の実質的無償化措置として、入学時34歳未満の学生に3年間学費相当額を給付する「若手研究者育成奨学金」（毎年募集定員の18名まで）や、授業料を減免する大学独自の奨学金制度を多様に取り揃えています。また、日本学生支援機構や民間・地方公共団体奨学金も取り扱っており、総合的な学資支援を行っています（※詳しくは、本研究科ホームページをご覧ください）。

このほかにも、大学院生が教育・研究の補助業務に携わるティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）の制度もあります。大学院生にとっては、教員・研究者となるためのトレーニングを積む良い機会であると同時に、研究生活を支える貴重な経済的支援にもなっています。

フィールドワーク

グローバル・スタディーズ研究科では、学生が実際に研究対象の地域に赴いて調査・研究を行うことを重視しており、フィールドワーク等のための旅費（最大15万円まで）を補助する本研究科独自の制度を設けています。フィールドワークや学会発表会等、活発な研究活動に役立てられています。

インターンシップ

本研究科では、国内は主に三菱総合研究所と連携してインターンシップの機会を提供しています。海外のインターンシップでは、学術提携校などを通じて政府（地方政府、JICAなど）、NGO（環境、教育、衛生、子供の支援など）、研究機関、企業でインターンシッププログラムに参加しています。

MESSAGE

修了生からのメッセージ

共に学び、互いに学び合うという豊かな経験

游 暁彤 さん
（2021年博士前期課程修了）

社会学を学んでいた私は、ジェンダーと雇用の研究に興味があって日本に留学しました。グローバル・スタディーズ研究科では、グローバル化を背景に、協力的で活気に満ちた教育環境で、二言語学習媒体と多文化および学際的な大学院課程を通じて、留学生が日本で学ぶためのすばらしい機会を得ることが出来ます。

グローバル・スタディーズ研究科での修士研究は非常に有益なものでした。幸運なことに、さまざまな専門分野の経験豊富な研究者から指導を受け、多様な背景を持つ仲間の学生と交流しながら、研究を行うことができました。そうした知的交流と文化交流によって視野が広がり、幅広い問題への理解が深まりました。互いがそれぞれの研究や方法論に留まらずに学び合い、新しい視点やアイディアから刺激を受けたことで、しばしば思いがけない形で互いの研究に役立つこともありました。

私は女性自身の視点から非正規雇用に占める女性の割合の高さを考察し、非正規雇用に従事する日本の女性について修士論文を書きました。労働条件の不十分さに留まらず、そうした女性たちが人生を切り開くために行動と決断を通して示している主体性と強靭さを、ネオリベラリズム、今なお残る家父長的規範、さまざまな構造的・制度的影響に照らして掘り下げることで、私たち自身、私たちが暮らす社会、社会的な苦痛と苦闘について深く考えさせられました。

修士課程修了後、私はグローバル・スタディーズ研究科で博士課程の学生として研究を続けるつもりです。そして、研究者として、また自分を高めるために、私たちが共に学び成長するための学問的刺激のあるグローバルな環境作りに役立ちたいと考えています。

社会人を経て大学院デビュー

辻 直美 さん
（2021年博士前期課程修了）

3年前の9月末のこと。そのころ東京で働いていた私は会社から突然、関西転勤の内示を受けた。この機に「大学院に行くぞ」と思い立って、翌春からさっそく「五十にして学に志す」社会人大学院生となりました。以来すっかり学問の面白さにはまり、修士課程を終えた現在は博士後期課程に進学しています。

グローバル・スタディーズ研究科では最新の研究動向を踏まえた多彩な授業があり、先生方によるコメントやアドバイスからいつも啓発を受けています。机を並べるのは留学生ら若い仲間が主ですが、中には定年後に博士号を取得した先輩もいて、私などまだまだヒヨッコと思わされます。本学は他研究科の授業も選択できるシステムなので、私も関心のある文化政策や美学などを他研究科で受講しました。他の大学や機関から出講している先生方も多く、学びと同時にネットワークも広がります。

私が取りくんでいるのは、文化財をテーマにした歴史研究です。本や論文を読み、史料をコツコツ調査し、文章を書き、という地味な日々ですが、逆に頭の中はどんどん世界が広がり、会社員時代の見聞も新たな形で融合されてきました。やるもやらぬも自分次第ですからストレスはあまり感じません（「もっと真剣にやれ」と先生に怒られそうですが…）。

大学院に入ったことで、たぶん私の人生はずいぶん変化しました。天命を知るべき年齢ではありますが、まだまだ未来が未知であることが楽しい毎日です。

就職・進路状況

本研究科は、異文化社会間の国際交流・理解の推進に貢献できる人材の養成を目指しています。修了生は、国際機関、公共機関、国際ビジネスに携わる企業、報道機関など幅広い分野で活躍しています。博士後期課程や海外の大学院等へ進学する学生も数多くいます。

修了生の就職先（一部）

- 国際協力機構（JICA）
- 外務省専門調査員
- 日本放送協会
- 時事通信社
- 西日本旅客鉄道
- 日本通運
- パナソニック
- 三菱電機
- 日立製作所
- 村田製作所
- マツダ
- 三菱自動車
- キリンビバレッジ
- ソフトバンクグループ
- 楽天
- 伊藤忠アビエーション
- フィリップ・モリス・ジャパン
- ロバート・ウォルターズ・ジャパン
- 国立民族学博物館
- 地方公務員
- 教員
- 海外の企業・団体

（順不同）

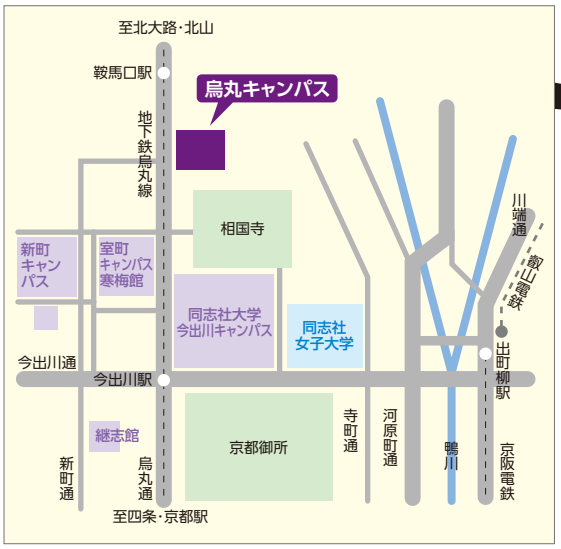
入試情報

グローバル・スタディーズ研究科　グローバル・スタディーズ専攻

課程	クラスター	募集人数	入試種別	春入学 出願時期	春入学 試験実施時期	秋入学 出願時期	秋入学 試験実施時期
博士課程（前期課程）	アメリカ研究クラスター 現代アジア研究クラスター グローバル社会研究クラスター	3クラスターで計45名	大学院入学試験 社会人特別選抜入学試験 外国人留学生入学試験【国内居住者】	7月	9月	—	—
				12～1月	2月		
			外国人留学生入学試験【国外居住者】	7月	書類選考	—	—
博士課程（後期課程）	アメリカ研究クラスター 現代アジア研究クラスター グローバル社会研究クラスター	3クラスターで計18名	大学院入学試験 外国人留学生入学試験【国内居住者】	7月	9月	12～1月	2月
				12～1月	2月		
			外国人留学生入学試験【国外居住者】	7月	書類選考	12～1 月	書類選考

- 博士課程（前期課程）の入学時期は春（4月）です。博士課程（後期課程）の入学時期は春（4月）もしくは秋（9月）です。
- 国内居住者で、外国人留学生入学試験により特別学生としての入学を希望する者の合否は、書類選考により判断します。
- 大学院入学試験要項は6月初旬に、外国人留学生入学試験要項は6月中旬より配布します。
  送付をご希望の場合はグローバル・スタディーズ研究科事務室へご連絡ください。
- 入学試験に関する情報は、各入学試験要項をご確認ください。また、下記URLをご参照ください。
  - 大学院入試　https://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/
  - 外国人留学生入試　https://intad.doshisha.ac.jp/

アクセス



同志社大学大学院　グローバル・スタディーズ研究科

〒602-0898　京都市上京区烏丸通上立売上ル
TEL.075-251-3930／FAX.075-251-3091　E-mail：ji-gs@mail.doshisha.ac.jp

https://global-studies.doshisha.ac.jp/